

「里山資本主義」真庭の挑戦

Maniwa

～真庭市経済の現状と地域資源活用による真庭市の戦略～ 真庭市長 太田 昇

真庭市役所本庁舎は、

木（バイオマス発電の電気とバイオマスボイラーの熱）

太陽（敷地内の太陽光発電）

人で動いています。

地域由来の再生可能エネルギー100%使用

- ・CO₂削減量：420t
- ・地域由来のエネルギー購入額：年間2000万円
- ・経費削減効果：年間560万円【平成28年度実績】

（庁舎冷暖房は地域の木質燃料を使用。重油に比べ、260万円の経費削減。

電力は、バイオマス発電からの購入、太陽光発電により、中国電力料金に比べ、それぞれ200万円、100万円の削減効果。）



【概要】

- 平成17年3月31日、「真庭郡勝山町、落合町、湯原町、久世町、美甘村、川上村、八束村、中和村及び上房郡北房町」の9町村が合併し、「真庭市」として誕生。
- 合併から13年が経過。各地域の多彩性を生かした広域行政を推進し、「ひとつの真庭」として自立し、合併効果を生み出している。
一方、人口減少・高齢化、交付税特例措置の廃止による税収減、公共施設の統廃合等の課題も山積。
- 人口 46,092人（東京都23区内人口の約200分の1）（平成30年4月1日現在 住民基本台帳速報値より）

【地勢的概況】

- 面積：約828km²（東京都23区の1.3倍）
（南北50km 東西30km）
（県下1位、県土の約11.6%）
- 気候：北部・豪雪／南部・温暖少雨
- 標高：最低110m／最高1,202m
（人家では553m 蒜山）
- 土地利用：山林79.2%・田畑8.2%
宅地1.7%・その他10.9%



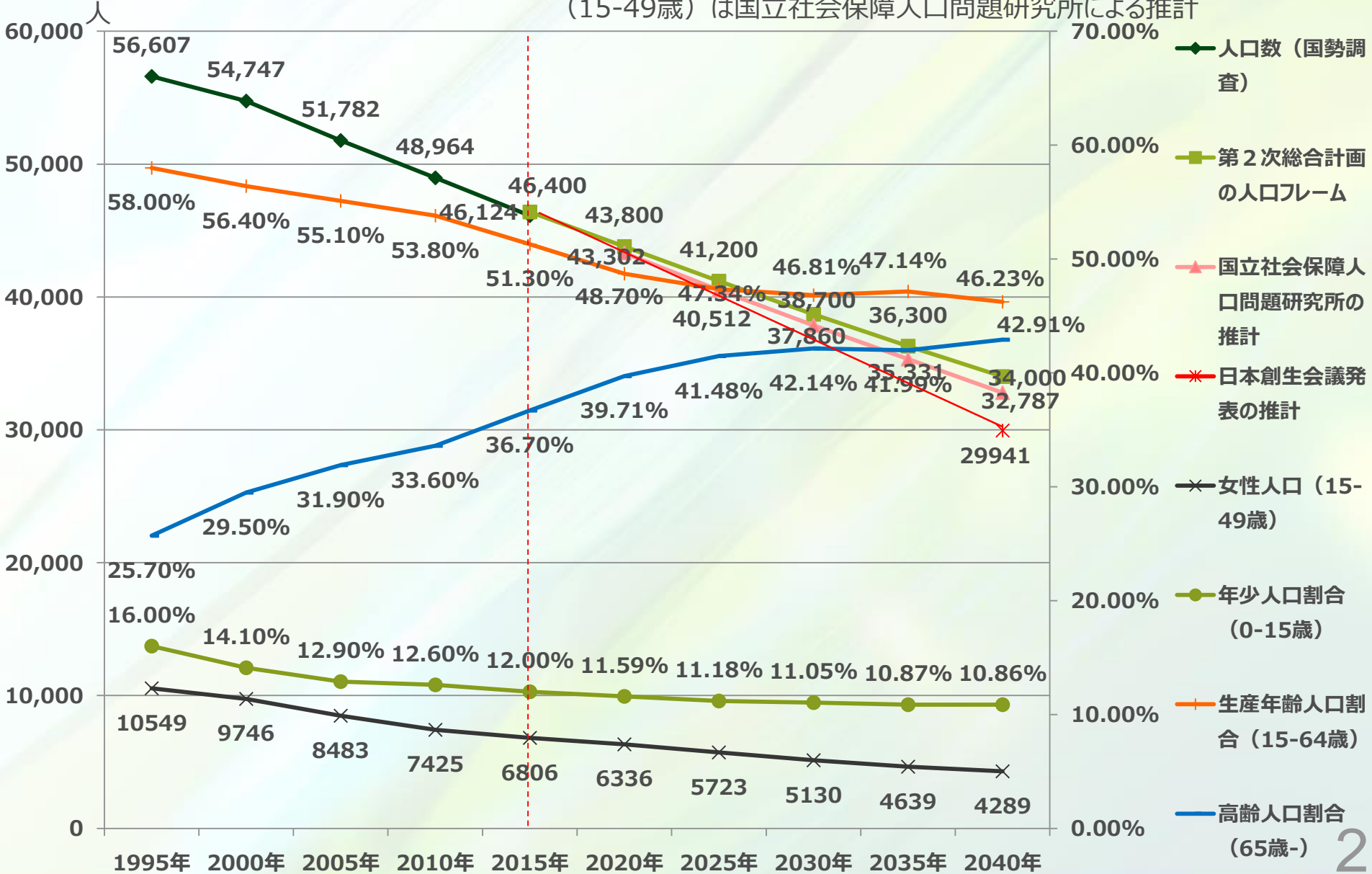
【安全】

- 活断層がない
- 震度4以上の地震がほとんどない
- 災害が少ない

1 真庭市の姿～人口～

【人口・高齢化率の推移と予測】

注：2015年までは国勢調査によるもの。以降の各割合及び女性人口（15-49歳）は国立社会保障人口問題研究所による推計

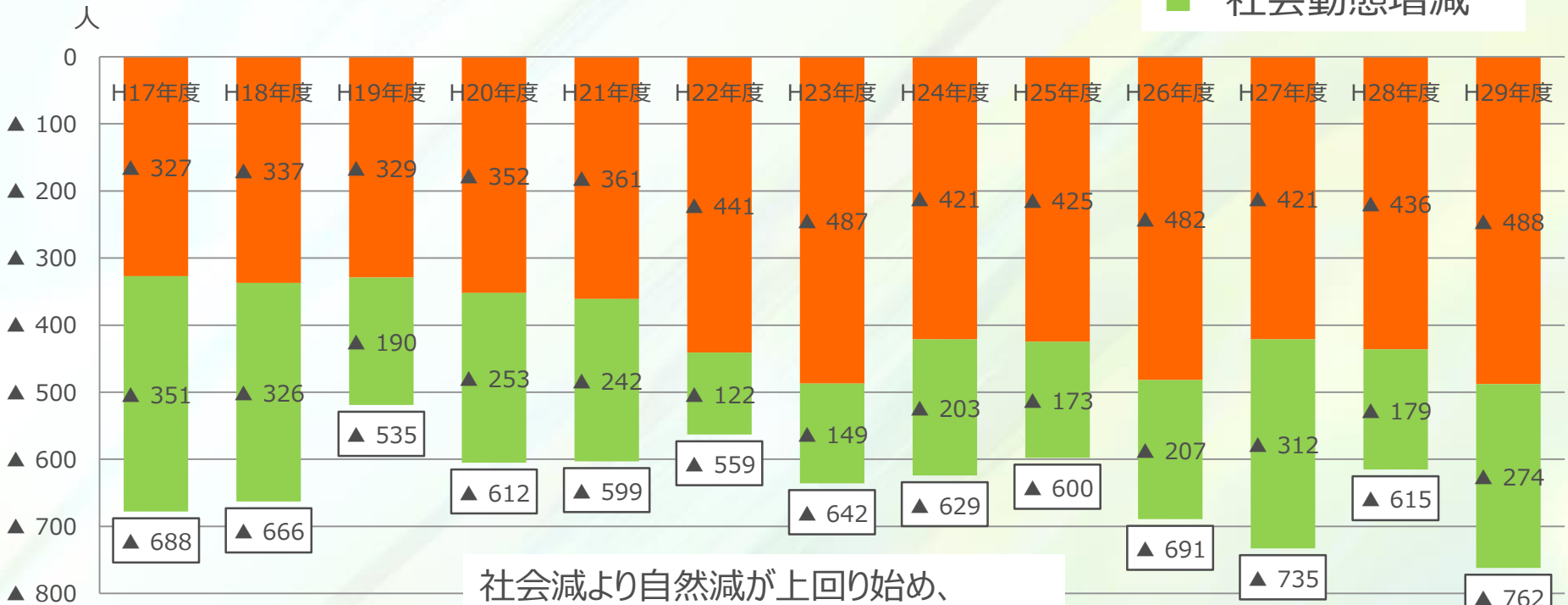


1 真庭市の姿～人口～

【真庭市の人口動態（増減）】

※H29年度3月分は速報値

自然動態増減
社会動態増減



社会減より自然減が上回り始め、
第1段階から第2段階へと向かっている

※ 人口減少の段階

第1段階

高齢人口は増加するが、年少・現役人口が減少している

第2段階

高齢人口は維持または微減し、年少・現役人口も減少している

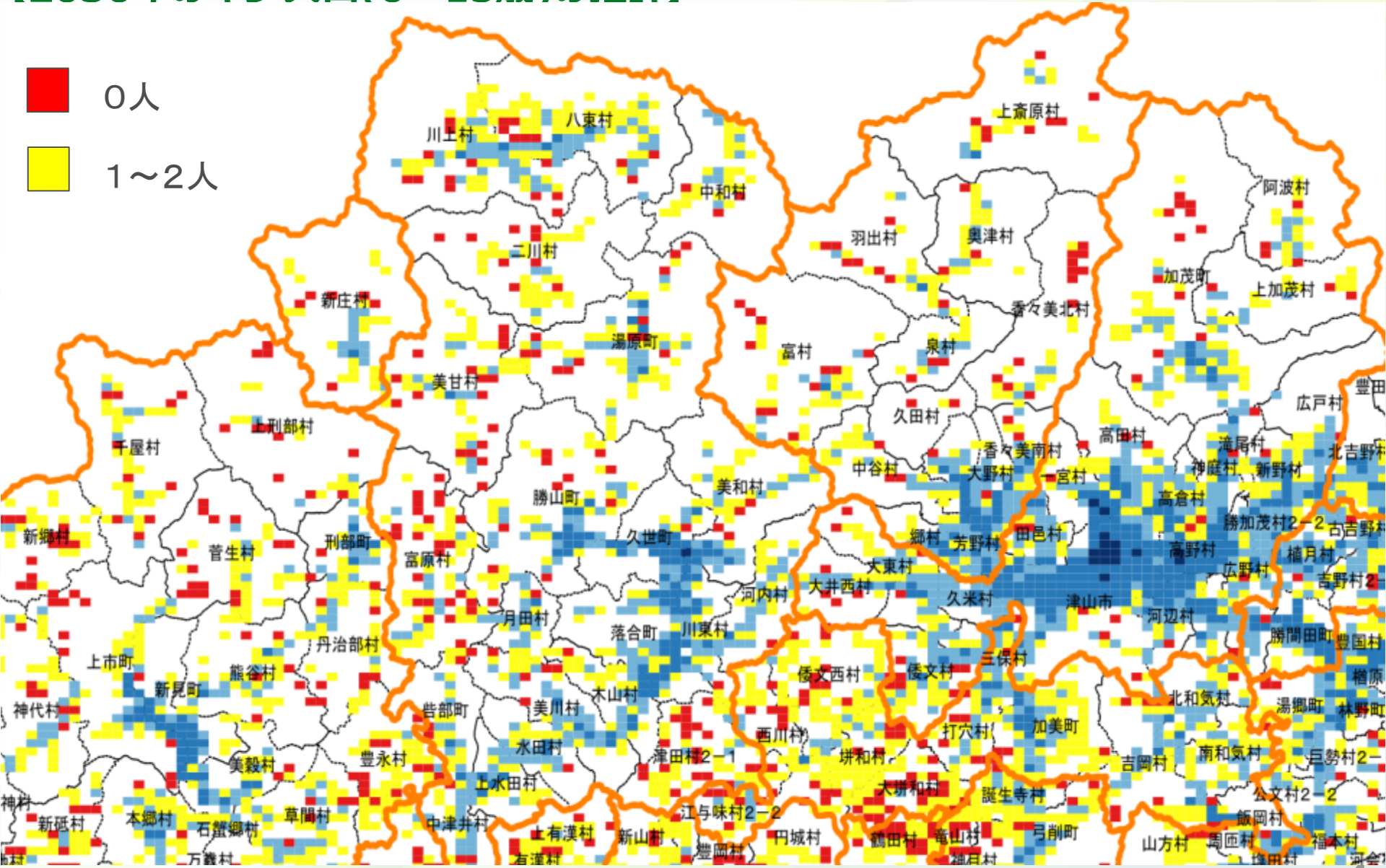
第3段階

高齢人口、年少人口、現役人口ともに減少している

1 真庭市の姿～人口～

【2030年の年少人口(0～15歳)の推計】

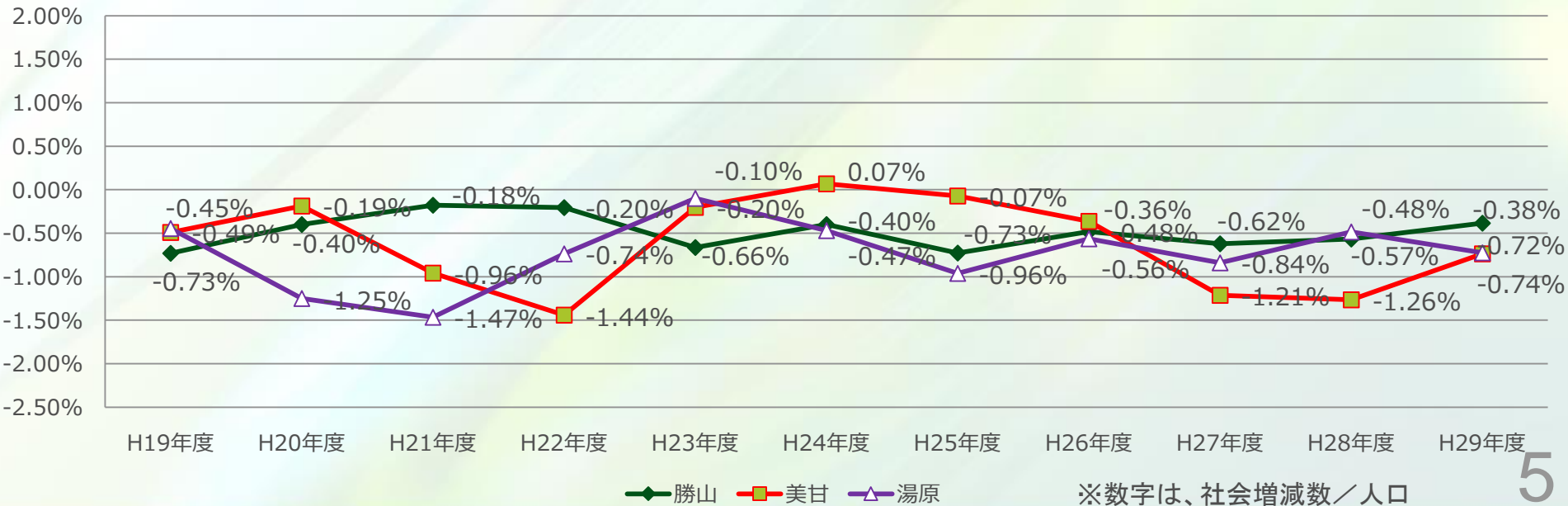
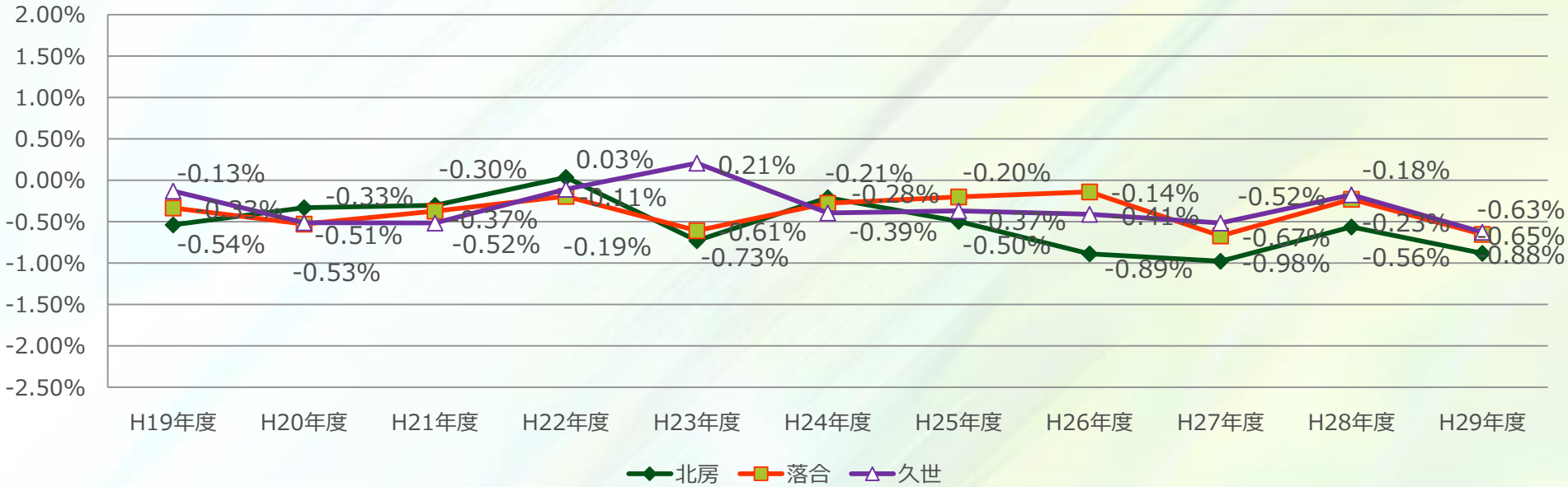
- 0人
- 1～2人



1 真庭市の姿～人口～

【各地域(旧町村)の社会増減の推移】

※H29年度3月分は速報値

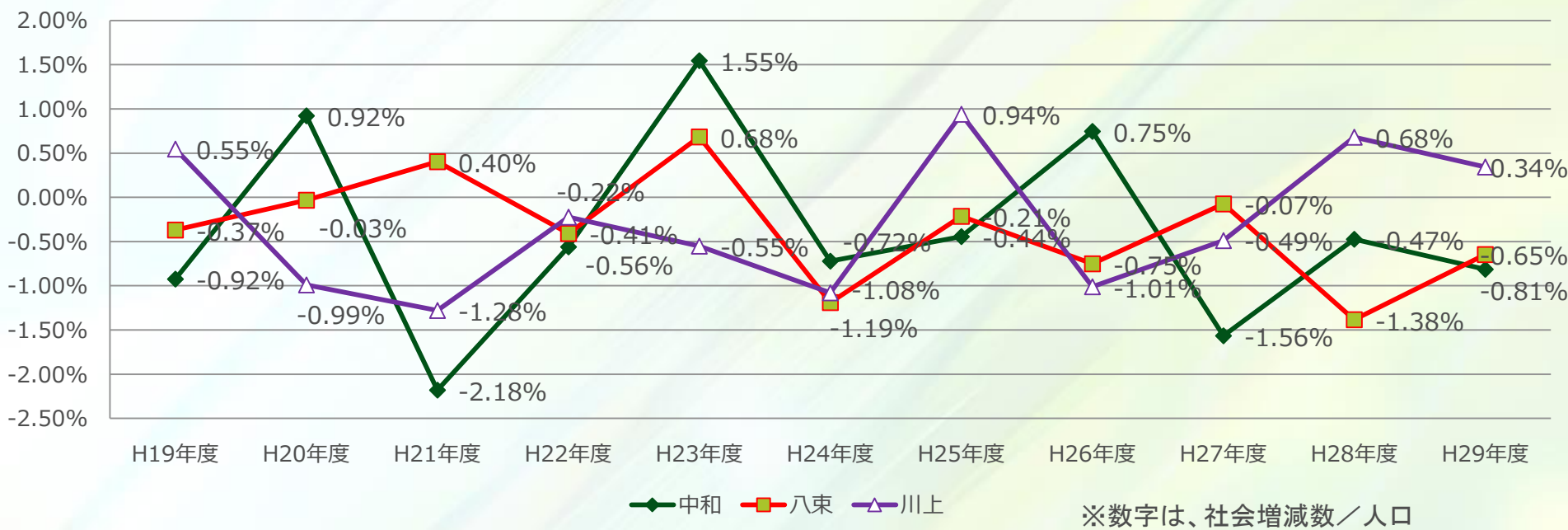


※数字は、社会増減数／人口

1 真庭市の姿～人口～

【各地域(旧町村)の社会増減の推移】

※H29年度3月分は速報値



⇒ 地域を真に豊かにするには？

行政は

市民の幸せづくりを

応援する

条件整備会社

真庭市で一番大切なものは、市民一人ひとり。
その幸せを実現すること＝「真庭ライフスタイル」の
実現が行政の目的。

幸せを実現するための活動や気持ちに「応えて」、
「援ける」ことが行政のすべきこと。

真庭市の主人公は「市民」。
行政の守備範囲は、条件を整えること。

最小の経費で、最大の住民幸福。
行政資源の最適配分を行う「行政経営」をしていく
組織。

【中山間地域の地域戦略】

「少子高齢化」、「地理的不利」といった中山間地域の制約と課題は、不利なのか・・・？

解決すべき問題？



少子



高齢化



中山間地



山はお荷物



逆転の発想

・少ないからこそできる個性に合わせたきめ細かな教育

・知恵と経験のある人がたくさんいる

・豊かな自然 精神的安らぎ 自立性の高さ

・地上資源の宝庫 エネルギー自給

エネルギー・雇用・産業・観光事業等の創出を実現

多彩な
地域性



多様な
地域資源



住民の
個性・思い



真庭ライフスタイル

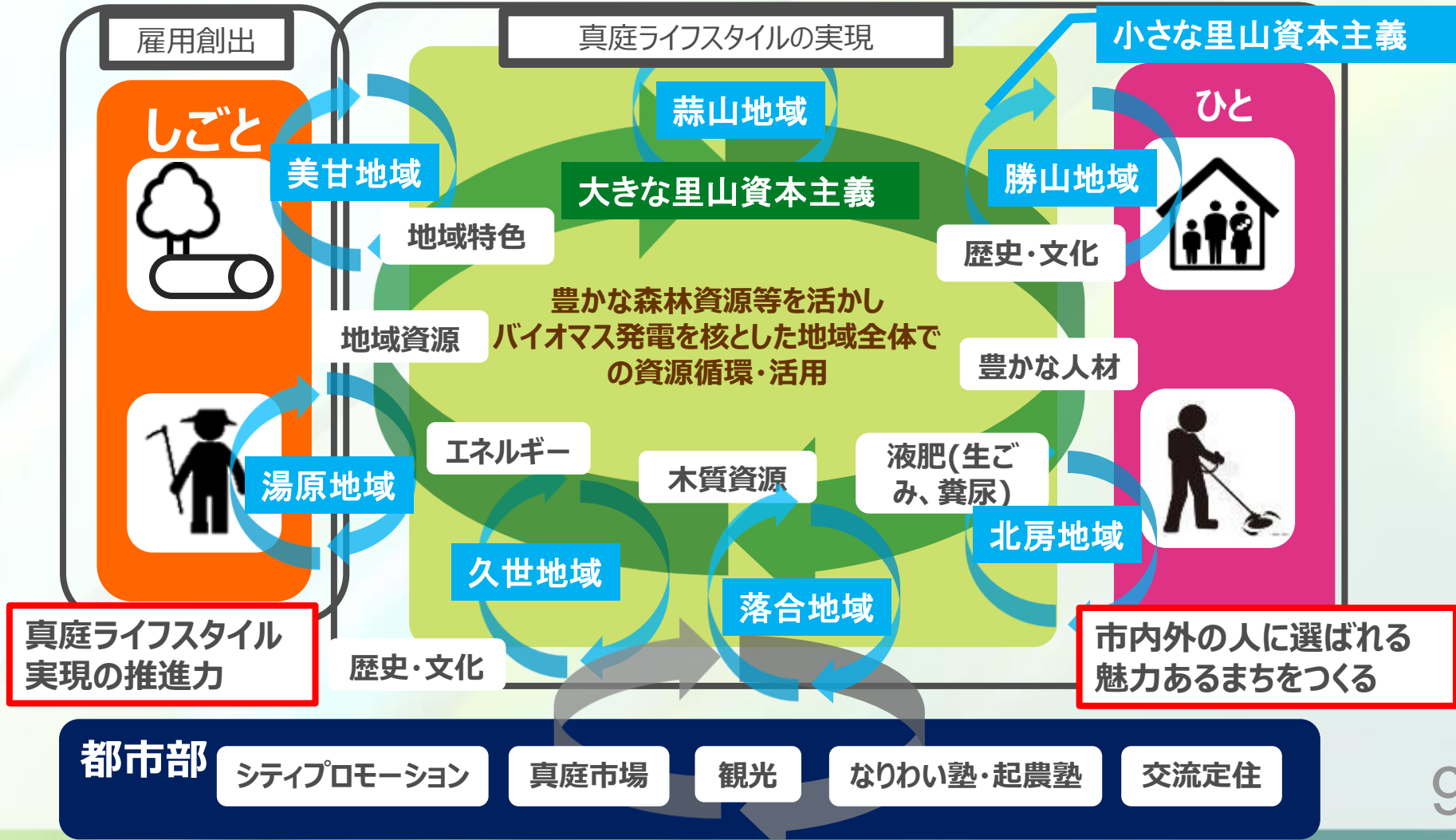
行政による条件整備・サポート

2 市政の方向

【小さな里山資本主義と大きな里山資本主義】

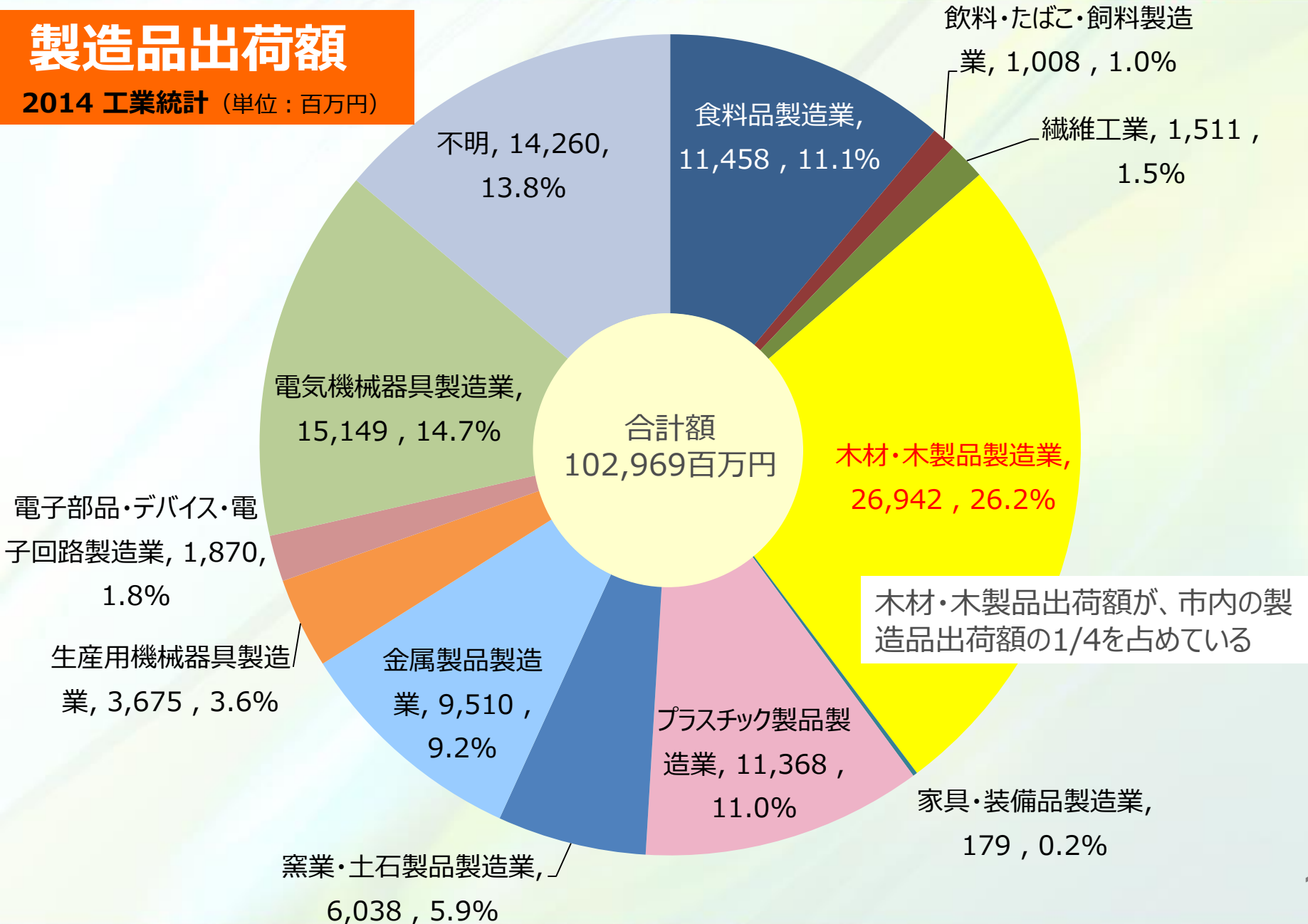
真庭市が進める「里山資本主義」とは、森林資源に代表される豊かな地域資源を活かした資源循環・経済循環をつくとともに、地域の生活や文化に根差した「真庭ライフスタイル」に共鳴する地域内外の人々の交流、連携により、持続的な地域をつくっていくこと。

「里山資本主義」は、バイオマス発電に代表される「大きな里山資本主義」と、各地域の特色ある資源を活かした「小さな里山資本主義」が相互に連携しあいながら前進していく。



製造品出荷額

2014 工業統計 (単位: 百万円)



3 産業振興～真庭バイオマス産業杜市～

【真庭バイオマス発電所】



実績・効果

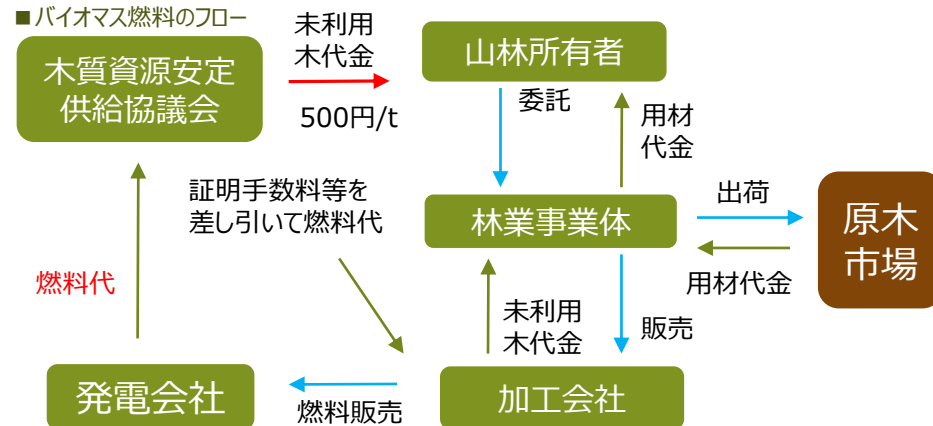
※稼働1年間 (H28.7～H29.6)で算定

経済	売上； 約23.8億円 (未利用木：一般木＝6：4) 燃料購入； 約13.8億円 石油代替； 21.5億円相当 ※灯油価格77円/ℓで算出
雇用	50人程度 (発電所 (直接) 15人、 林業木材業 (間接) 35人)
波及	・約67,000t-CO ₂ 削減 ・エネルギー自給率11.6%⇒ 約32%

- 未利用や産廃処理 (処分費相当**1億円以上**) されていたものが、資源として有価で取引
 - システムによる山林所有者へ燃料代のうち500円/tを還元する仕組みを構築
- 【合計還元見込額 ⇒**約6,500万円**】 (H26.10～H29.6)

■バイオマス発電所の概要

発電能力：10,000kW (未利用木、製材・端材樹皮を活用)
 利用燃料：**104,600 t/年** (計画利用量148,000 t/年)
 稼働率：**99.3%** (前年同期稼働率：98.5%)
 発電量：**約81,000MWh**
 計画運転日数：330日/年
 運営：真庭バイオマス発電(株)
 (銘建工業、真庭木材事業協同組合など全10団体で構成)



バイオマス発電は大きなトラブルもなく、非常に順調に稼働⇒

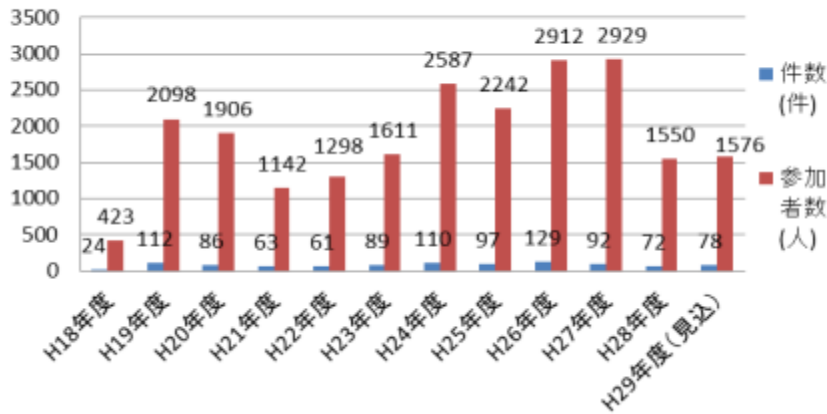
エネルギー事業として大きな収益を上げ、山元や製材所等林業・製材業者へ利益還元

3 産業振興～真庭バイオマス産業杜市～

【産業観光ツアー「バイオマスツアー真庭」】

バイオマス事業や関連施設の視察者への対応を図るとともに、真庭地域の取組み全体を情報発信する戦略として、平成18年12月から「バイオマスツアー真庭」を実施。運行バス・印刷物にJクレジットを活用したカーボンオフセットを実施し、環境に配慮したツアーを展開。4割以上の参加者が宿泊され、旅館や飲食店への波及効果も生まれる。

バイオマスツアー開催件数及び参加者数



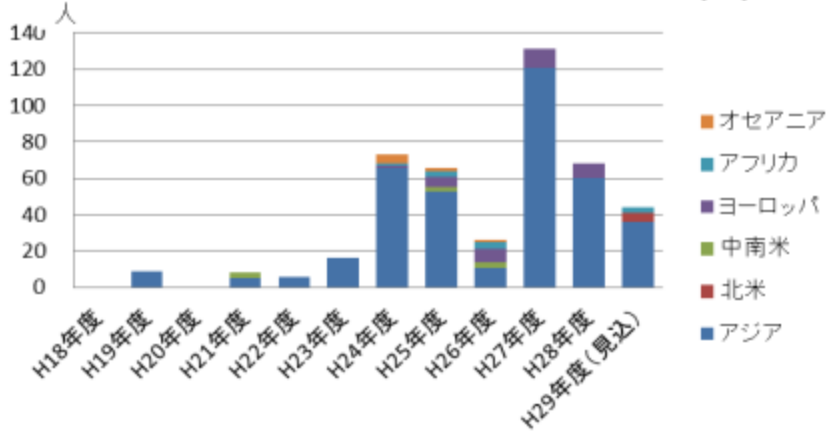
バイオマスツアー実績数：1,944団体 22,274人
(H18年12月～H29年3月見込)

※うち、379人がアジア、ヨーロッパ、アフリカ等の外国人参加者

バイオマスツアー受賞歴

- 平成21年度 第14回新エネ大賞（経済産業大臣賞）受賞
- 平成22年度 第4回産業観光まちづくり大賞（奨励賞）受賞
- 平成24年度 WATT SENSE AWARD 2012（優秀賞）受賞
- 平成28年度 第2回ジャパン・ツーリズム・アワード受賞

バイオマスツアー 外国人参加者数の推移(国)



バイオマスにちなんだ人気のお土産



ペレットクッキー

CLTチョコレート

※ペレットクッキーについては、真庭市内の障がい者就労施設にて製造

「バイオマス女子」の結成

バイオマスツアーの女性案内人による「バイオマス女子」を結成、女性目線による特色ある案内を行っている。



3 産業振興～木材の需要拡大・CLT～



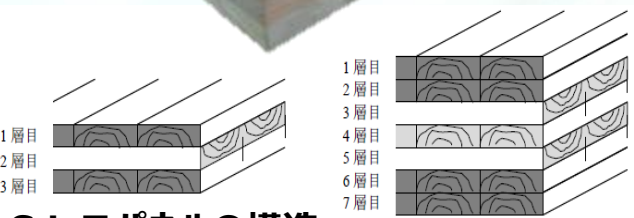
【鉄筋鉄骨に代わる新たな構造材CLT】

生活全体の木質化



CLT（直交集成板）とは、**Cross Laminated Timber**の略称。

欧州で発達し、中層住宅の材料として使用されている。H28年4月、建築基準法に基づく告示が公布・施行され、構造材として国内で使用することが可能となった。



CLTパネルの構造

CLTのメリット

- ①パネル構造のため工期を短縮でき、廃材も少ない。
- ②分厚い構造材のため高い耐震性。
- ③直交構造により通常の木材よりも伸縮性が少ないので寸法安定性が高い。
- ④鉄筋コンクリート造、鉄骨造に比べ、軽量で基礎の規模を縮小でき、CO2排出量が少なく地球にやさしい。
- ⑤高い断熱性により温度変化が少なく、快適な環境空間。

建設物の構造別二酸化炭素排出量の比較

鉄骨は木造の2.4倍、鉄骨鉄筋コンクリート造は木造の3.5倍

住宅1棟（床面積125.86㎡）を建設する際に使用する主要構造材料の構法別製造時二酸化炭素排出量（kg-CO2）

	木造	コンクリート造	鉄骨造	鉄骨鉄筋コンクリート造	構造平均
木材	10,611.87	1,006.30	411.67	914.82	4,253.90
鋼材	3,876.49	37,472.72	41,672.25	54,916.91	27,781.50
コンクリート	12,363.23	54,436.97	22,742.06	53,361.70	27,569.21
合計	26,851.59	92,915.99	64,825.98	109,193.43	59,604.61
比率	1.00	3.46	2.41	4.07	2.22

出典：建設時における木造住宅の二酸化炭素排出量（ウッドマイルズ研究会）

建設物の建築コスト比較

工事費は鉄筋と同程度

岡山県がCLTと鉄筋コンクリート、鉄骨で建てた場合の工事費を比較したところ、「いずれの構造材を使ってもおおむね同程度の工事費に収まる」との見解を示した。材料価格は鉄骨造や鉄筋コンクリート造に比べ高いものの、軽量で断熱性に優れた特性から、基礎部分や内装工事のコストを抑えることができるとした。（平成30年3月22日公表 岡山県建築コスト調査による）

3 産業振興～木材の需要拡大・CLT建設実績～

【CLT等建設実績】

18回木材活用コンクール
全国木材組合連合会会長賞



H26年
真庭市役所前バス待合所
(国内初のCLT建造物)



H28年
市内ビジネスホテル
(平成28年4月営業開始)

H26年	真庭市役所前バス待合所
H27年	市営住宅 (CLT構造・3階建) ×1棟 木材組合共同住宅 (CLT構造・3階建) ×2棟
H28年	ビジネスホテル (木造軸組+CLT・2階建) ×1棟 落合総合センター (一部木造・2階建) ×1棟 こども園 (木造・平屋建) ×1棟



H27年 H27年度全建賞受賞
CLTの市営住宅
(H27年4月入所)



H28年
天の川こども園
(H28年4月開園)

国内初CLT専用工場
H28年3月完成(3万m³)

CLT工場のカナ屑を燃料として発電所へ送る。反対に発電所の蒸気(熱)をCLT工場に送り木材乾燥に活用



CLT専用工場

バイオマス発電所



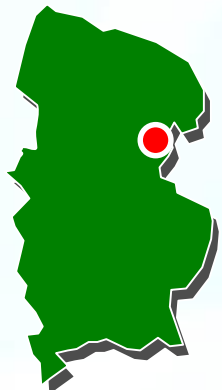
H27年
木材組合共同住宅
(平成28年4月開所)



H28年
落合総合センター
(平成28年4月開所)

H28年木材利用優良施設表彰 農林水産大臣賞 他

ちゅうか
【中和のまちづくり】



地域住民や移住者が主体となって、**地域振興会社**（一社）アシタカを設立。高齢者が山から搬出してきた丸太を購入し、薪に加工、地域内の宿泊施設の温泉の薪ボイラの燃料として販売。また、地域資源を活用した製品の企画・生産・販売を行っている。

中和地域の「小さな里山資本主義」の取組（薪ボイラーによる資源循環と小さなビジネス）

バイオマス産業都市真庭に新たな魅力 **薪** を活用した取り組み



地域資源を活用した製品の企画・生産・販売



効果

温泉の加温用の灯油ボイラ→薪ボイラ切り替えにより灯油使用量を**5割削減**

（H28年度実績で対24年度比較）

薪を地域から買い取ることで、海外へ流出していた資金が地域内を循環。平成28年度は燃料代200万円が地域内へ。

4 地域振興事業

かつやま 【勝山のまちづくり】

芸術・文化のまち勝山



クラフト市の様子

勝山地域は芸術・文化を中心としたまちづくりを展開。市内外の職人による「体験クラフト市」や、映画や演劇のワークショップが開催されている。



勝山町並み保存地区

地元染織作家による約100枚の「のれん」が、軒先にそよぐ「まちの顔」。近年は飲食店等も増加し賑わいを見せている。

里山の宝探し



旬の山野草のカレー
(H28年8月に商品化)

H23年度より薬草の勉強会からはじまり、山野草料理などの研究を重ね、山野草を使ったレトルトカレー等の商品化や住民グループ主体「全国薬草シンポジウム」の開催に発展している。



山野草の栽培に挑戦



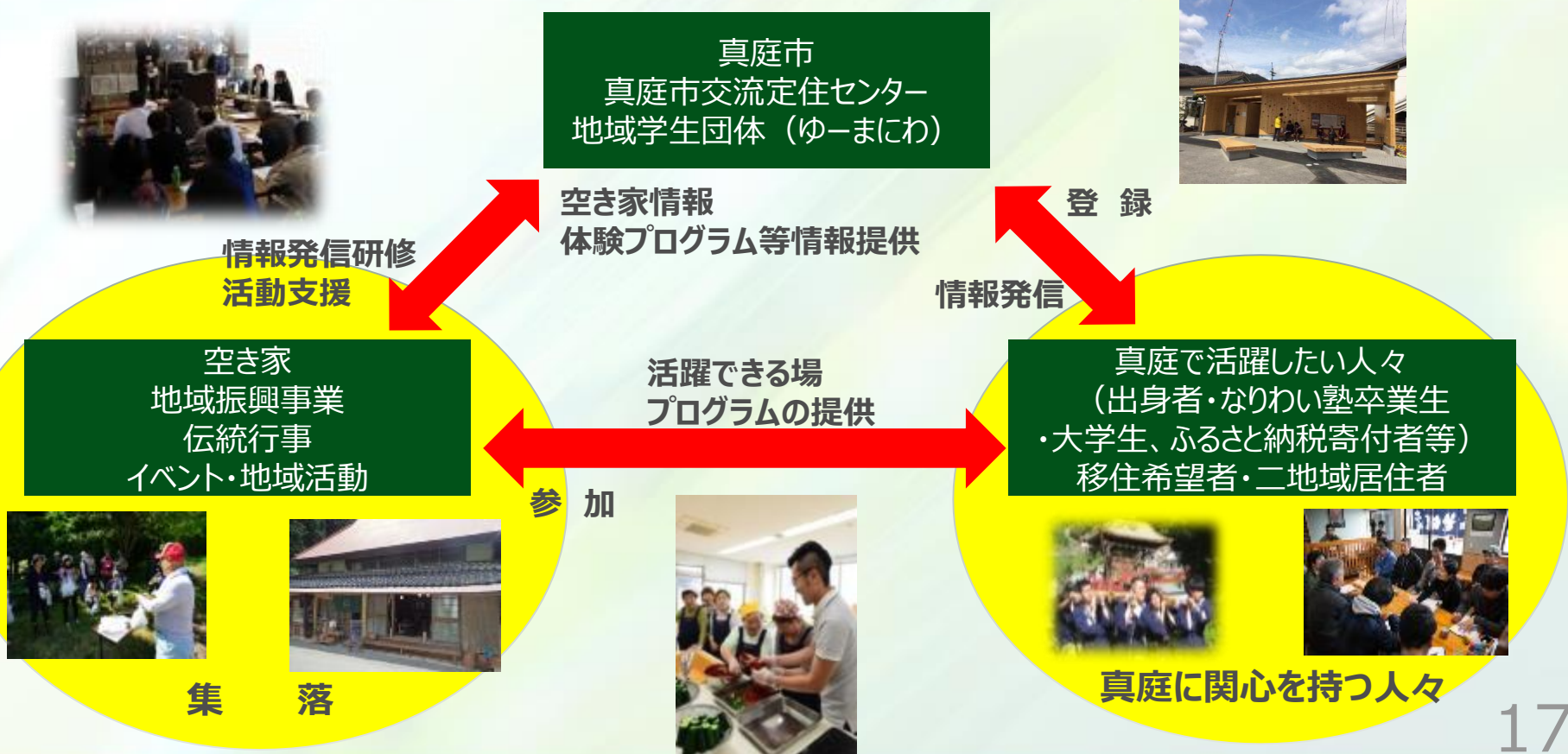
全国薬草シンポジウムを平成29年10月開催



地元の山で山野草を収穫

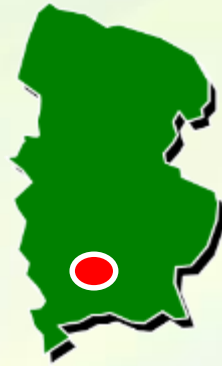
【事業概要】

- ・地域が主体となって、空き家等を整備し、お試し住宅・オフィス等として移住希望者や二地域居住者とともに共有し、体験プログラムを提供する仕組みを構築
- ・大学生等真庭に関心を持つ人々に情報発信し、伝統行事等魅力的な活動機会を提供
- ・参加者を「関係人口」として位置づけ、継続的に活動機会を提供する仕組みを構築
- ・多様なツールを活用し、イベント・暮らしぶり・地域活動などの情報発信の強化



5 永続的发展を目指す取組～地域おこし協力隊の取組～

氏名：姜 侖秀（カン ユンス）
 出身：韓国ソウル
 経歴：大学を卒業後、会社勤務、芸術団体の運営を経てシェアハウス運営会社に勤め、日本で生活・文化を学んだ後、地域おこし協力隊となる。



～交流と連携でさらなる地域づくり～

北房キムチの特産品開発、「株式会社ふ」の設立

韓国では高級品でキムチに使われる「梨」の規格外品に目をつけ、韓国よりキムチ作り名人を招致して地元のお母さんグループと「北房キムチ」を商品化。



～外国人が地域を照らす～

インターナショナルシェアハウスの開設と運営

ふるさと納税を活用したクラウドファンディングにより市内外から資金を募り、多国籍シェアハウスを開設。

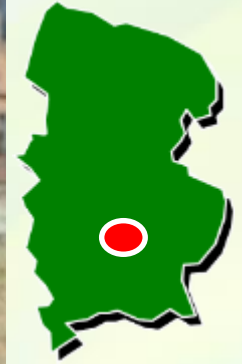
- ・異文化交流
(例：子育てグループや小学校での学習交流)
- ・日本の田舎の魅力発見
(例：サイクリングコースの設定やマップの作製)
- ・海外への情報発信
(例：インターネットの韓国ニュースや旅行サイトに掲載)



総務省発行「ふるさと納税活用事例集」に掲載

5 永続的发展を目指す取組～地域おこし協力隊の取組～

氏名：橋本 隆宏（はしもと たかひろ）
出身：栃木県宇都宮市
経歴：東京大学農学部を休学し、平成29年4月から地域おこし協力隊として活動を行う。



～「大学がない真庭」を「大学生の活躍する真庭」へ～

地域学生団体「ゆーまにわ」の設立と地域を巻き込んだ活動

様々な特技や興味分野を持つ多様な大学生が集う活動拠点「キャンパス」を、空き家を活用して開設、様々なイベントの企画や参加を行う。

・真庭夏合宿（2017/8）

大学生が1泊2日で「真庭の移住者」にスポットをあててインタビューし、真庭での仕事や生き方を学び、冊子にとりまとめた。

・マニワの虎in日野上雲海（2017/12）

2泊3日での合宿形式で地域の課題解決方策を考え、投資家に提案するビジネスコンテストを開催した。



○ 東京大学「学生の休学の基準」（要約）

- (1) 海外の教育・研究施設での修学
- (2) 海外での調査、見学
- (3) 経済的理由
- (4) 外国人学生の一時帰国
- (5) 出産・育児
- (6) 介護
- (7) 社会貢献活動（青年海外協力隊、被災者支援、障害者支援）

5 持続的発展を目指す取組～交流定住センターの取組～

真庭市が持続的な発展を遂げるためには、魅力ある「人」が必要であり、交流を移住、定住へとつなげていく。
真庭市交流定住センターでは、市内外の地域間や都市間との交流、移住定住に関する様々なサポートを行っている。

市内外・地域間の交流



地域間交流イベント
「やまびこマーケット」

移住・定住の取組



市外の人参加し行う山焼き
地域行事を通じ交流し、興味
をもってもらおう



移住相談会



交流定住センターでの
移住定住相談

交流

移住

定住



各地で活動をされている方々と他地域
の方々を結ぶ「地域間交流会」



移住体験ツアー



移住者と住民との交流会
「真庭暮らし交流会」

5 永続的发展を目指す取組

～商工会・真庭市産業サポートセンター～

● 真庭市産業サポートセンター

商工業、農林業、観光業の総合的な振興や雇用の促進を目的として、市、真庭商工会、真庭農業協同組合、びほく農業協同組合の4つの機関で構成し、真庭森林組合や木材事業協同組合の協力も得て運営。

【実施事業】

○ 自主事業

■ 真庭市産業サポートセンター支援事業

- ・産業連携支援事業
- ・地域資源活用事業
- ・産学連携促進事業

■ 真庭ブランド推進支援事業

■ 名物開発・ブランド化支援事業

○ 各種補助事業申請支援

■ 起業支援事業

■ 経営革新応援事業

■ 経営力向上支援事業

■ ベンチャー企業成長支援事業など

【平成29年度主な実績】

- ・真庭市産業サポートセンター支援事業 支援事業者：11件
- ・真庭ブランド推進支援事業 支援事業者：6件
- ・名物開発・ブランド化支援事業 支援事業者：5件
- ・各種補助事業申請支援 支援事業者：21件 など

【H28年度サポートセンター支援事業を活用して開発された主な商品】



ミツマタ化粧水



ホタルうどん



酒粕ジェラート



真庭ヴァイキング(ANA)



ギフトカタログ

※ミツマタ化粧水は、平成29年度むらおこし特産品コンテスト(主催：全国商工会連合会)で中小企業庁長官賞を受賞

● 地域金融機関連絡会議 (仮称)

新事業創出や新分野の開拓支援、販路開拓支援、産業育成と再生など、産業振興に関する連携を強化するため、地域の幅広い情報網を持ち、企業と密接な関係にある地域金融機関（中国銀行等）と市、真庭商工会とが、情報共有を図る場を新たに設置。

5 持続的発展を目指す取組 ～起業支援・新たな産業モデルの構築～

充実した起業支援

(創業塾や起業支援補助金など)

起業支援にも力を入れており、創業塾や起業支援補助等の起業への支援も充実している。

また、女性の起業支援のため、「起業女子応援café」等も開催。

糖質制限中の方でも食べられる！ 低糖質甘味料・チョコレートを開発



真庭バイオマスラボ※で研究をしている企業が、市内チョコレート製造メーカーと共同で開発。羅漢果を原料としたカロリー・糖質ゼロの天然甘味料を使用し、糖質制限中の方でも食べられる。

※真庭バイオマスラボとは
バイオマスリファイナリー事業の共同研究、バイオマス関連の人材育成、拠点として岡山県と真庭市で共同して設置している施設

地域資源を活用した肌にも 環境にも優しい石けん工房

元地域おこし協力隊の女性が、真庭市初の石けん工房を創業。

保存料や合成香料、着色料、パームオイルは使わず、山ぶどう、薬草など地域の素材を練り込んで手作りしている。



さまざまな仕事、働き方があるなか、**起業**という選択

イキカタ

1月開講
毎週土曜日

**まにわ
創業塾
2018**

受講料
無料

塾生募集

講師の小谷野さんが創業したカフェで、彼女の美味しいコーヒーと手作りスイーツを味わいながら、くつろいだ雰囲気の中、受講できるセミナーです。

起業女子応援café

3月14日(火)13:30～15:30 | OPEN13:00 | 参加無料 | 定員10名(先着順)
かびばらこーひー | 真庭市豊山158 | <http://capikopi.com/>



かびばらこーひー
真庭市豊山158
店主 小谷野 舞葉さん
創業2017年。地元産の山ぶどう、薬草など地域の素材を練り込んで手作りしている。

5 永続的发展を目指す取組～真庭なりわい塾～

「真庭なりわい塾」は、真庭市中和地域をフィールドに、農山村における新たな生き方と多様な働き方を模索し、創造する人材を育成する塾。幅広い世代、様々な職種の受講者が、毎月、岡山市や大阪・京都など都市部から通っており、地域づくりについて、地域で活動しながら学ぶ。

平成28年度5月より開講。基礎編、実践編の2年間。

平成28年度は応募者64名の中から選考した25名が参加。

平成29年度受講生は、1期生2期生合わせて50名。平成30年度も継続して実施。



聞き書きの様子



森林とバイオマス

真庭なりわい塾年間スケジュール

【基礎編】

- ① 5月 地元学
- ② 6月 食と農
- ③ 7月 森林とバイオマス
- ④ 8月 聞き書き
- ⑤ 9月 先輩の話 振り返り
- ⑥ 10月 自治・祭礼
- ⑦ 11月 空き家・教育
- ⑧ 12月 経済・ワークショップ
- ⑨ 1月 発表・修了式

(計9回1泊2日18日実施)

【実践編】

2年目は林業・農業研修、お堂の改修、蜂蜜採取など様々なプロジェクト活動を行う。

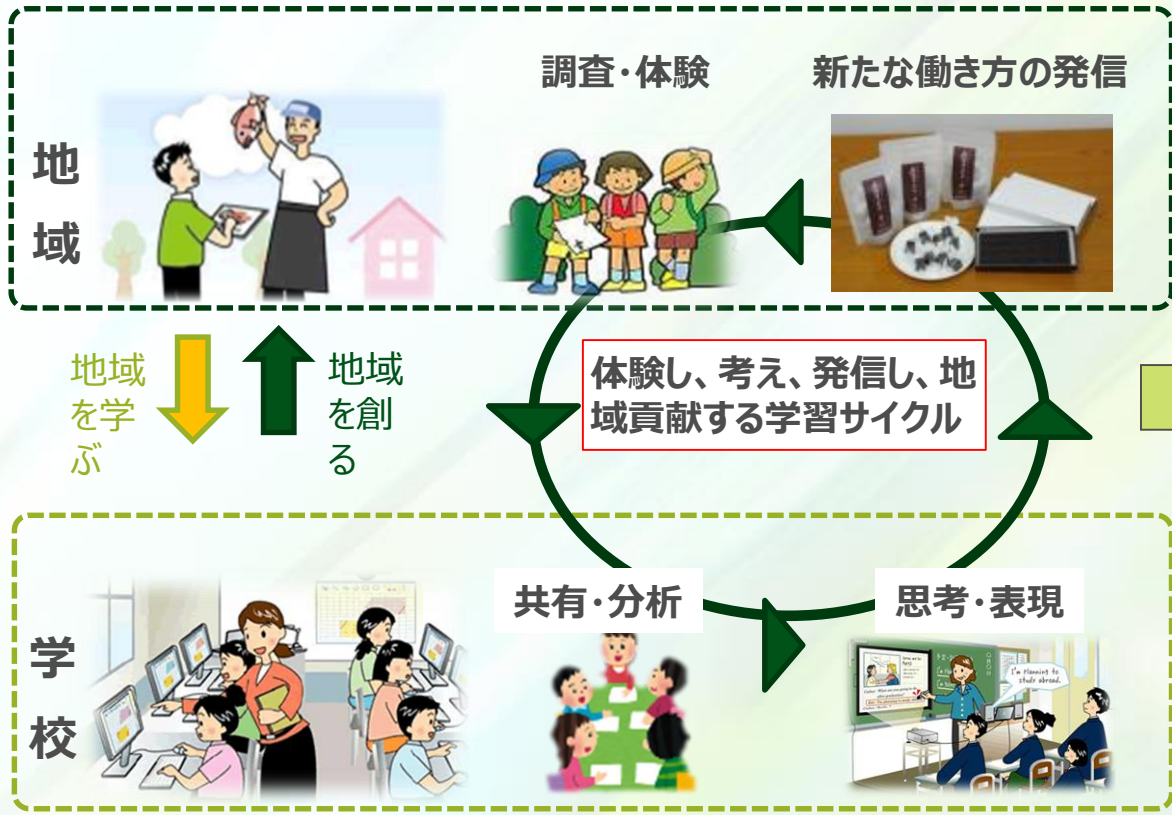
なりわい塾卒業生（1期生）25名のうち3名が真庭市へ移住、8名が他地域で地域おこし協力隊として活動するなど、新たなライフスタイルに挑んでいる。

5 永続的発展を目指す取組

～地域に誇りを持つ人を育てる・郷育による郷土愛の醸成～

●郷土愛を醸成し、真庭に帰ってきたい、真庭で働きたい思いをはぐくむ

地域や学校での体験・共有・分析・発信を通じ、「地域への誇り」等を醸成する。
また、各地域で取り組んでいる地域振興事業や新しい働き方などを子供たちに伝え、「真庭に帰って来たい」、「真庭で働きたい」という思いをはぐくんでいく。



郷土愛の醸成
真庭に帰ってきたい、
真庭で働きたいという
思いを育む

5 永続的发展を目指す取組

～地域に誇りを持つ人を育てる・特色ある子育て・教育の取組～

● 幼児期から青年期まで一貫した教育を実施

県下最大の木造公共建築物！（木材使用料2,000㎡）

北房地域の5つの小学校を一つに統合し、新たに北房小学校を新設し、同敷地内に認定こども園と放課後児童クラブを併設する。中学校も近い位置となり、幼児期から青年期までの育ちに寄り添った切れ目のない新たな教育環境を整備。冷暖房設備はバイオマスボイラーを使用。



小学校完成予想図

真庭市産木材をふんだんに使用した木造校舎



C L T の特徴を生かしたこども園内観イメージ

◇ 目指す教育 ◇

安心して学び育つ環境を創る

- ・こども園・小学校の連携強化
- ・小中連携による学力向上への取組
- ・放課後児童クラブとの連携
- ・地域住民の参画推進
- ・生活の連続性の確保

教育の質を高める

- ・地域リソースを生かして、知・徳・体の育成
- ・こども園・用学校の連携事業や研修の実施
- ・中学校や図書館等の近隣施設と連携した教育活動
- ・育ちの連続性の確保

5 持続的発展を目指す取組

～本の香るまちづくり・特色ある図書館講座等の実施～

中央図書館の整備

勝山地域の旧庁舎を中央図書館にリノベーション。学びあい、人生を応援しあう、市民参加型の図書館を目指す。

平成30年7月頃開館

- ・事業費約8億円
- ・CLTやバイオマスボイラーを使用



実施予定事業（通常の図書館業務以外）

- ・絵本の読み聞かせ等を定期的実施
- ・子どもたちが勉強を教えもらえるような環境の整備
- ・イベント実施やボランティア人材の発掘・育成を通じた生きがいづくり
- ・移動図書館を市内に展開

図書館の利用促進のほか、各世代にマッチした学習機会や各種支援等を提供

【市外からの市役所受験者数（事務）】

永続的发展に向けた真庭市の取組が評価され、近年、市外からの真庭市職員採用試験の受験者が増加し、平成30年度は、市外からの受験者が過半を占めた。

採用年度	市内	市外（内県外）	合計
H26年度	60人	16人（3人）	76人
H27年度	52人	19人（5人）	71人
H28年度	43人	24人（0人）	67人
H29年度	60人	56人（9人）	116人
H30年度	41人	49人（9人）	90人

6 持続可能な地域の発展へ向けて～地方分散型モデルの構築～

2050年に向けた未来シナリオ

京都大学こころの未来研究センター広井良典教授：

社会構築と政策課題に関する知見 + 日立：人口知能（AI）技術の活用による政策提言

AIを用いたシミュレーション：2018年から2052年の35年間で約2万通りの未来シナリオを予測し23個のグループに分類



地方分散型と都市集中型の傾向に2分される



● 地方分散型

出生率が持ち直して格差が縮小し、
個人の健康寿命や幸福感も増大する
ただし、財政あるいは環境を悪化させる可能性を含む

● 都市集中型

出生率の低下と格差の拡大がさらに進行し、
個人の健康寿命や幸福感は低下する

⇒ 地方分散型の方が都市集中型に比べ持続可能性に優れている。



● 政策提言

1. 8～10年後までに都市集中型か地方分散型かを選択して必要な政策を実行すべきである。

今から8～10年後に、都市集中型と地方分散型の分岐が発生し、以降は両シナリオが再び交わることはない。

⇒ 今から8～10年後までに必要な政策を実施しないと、地方の体力がなくなり、地方分散型へ移行できなくなる。

2. 持続可能な地方分散型の実現には、約17～20年後まで継続的な政策実行が必要である。

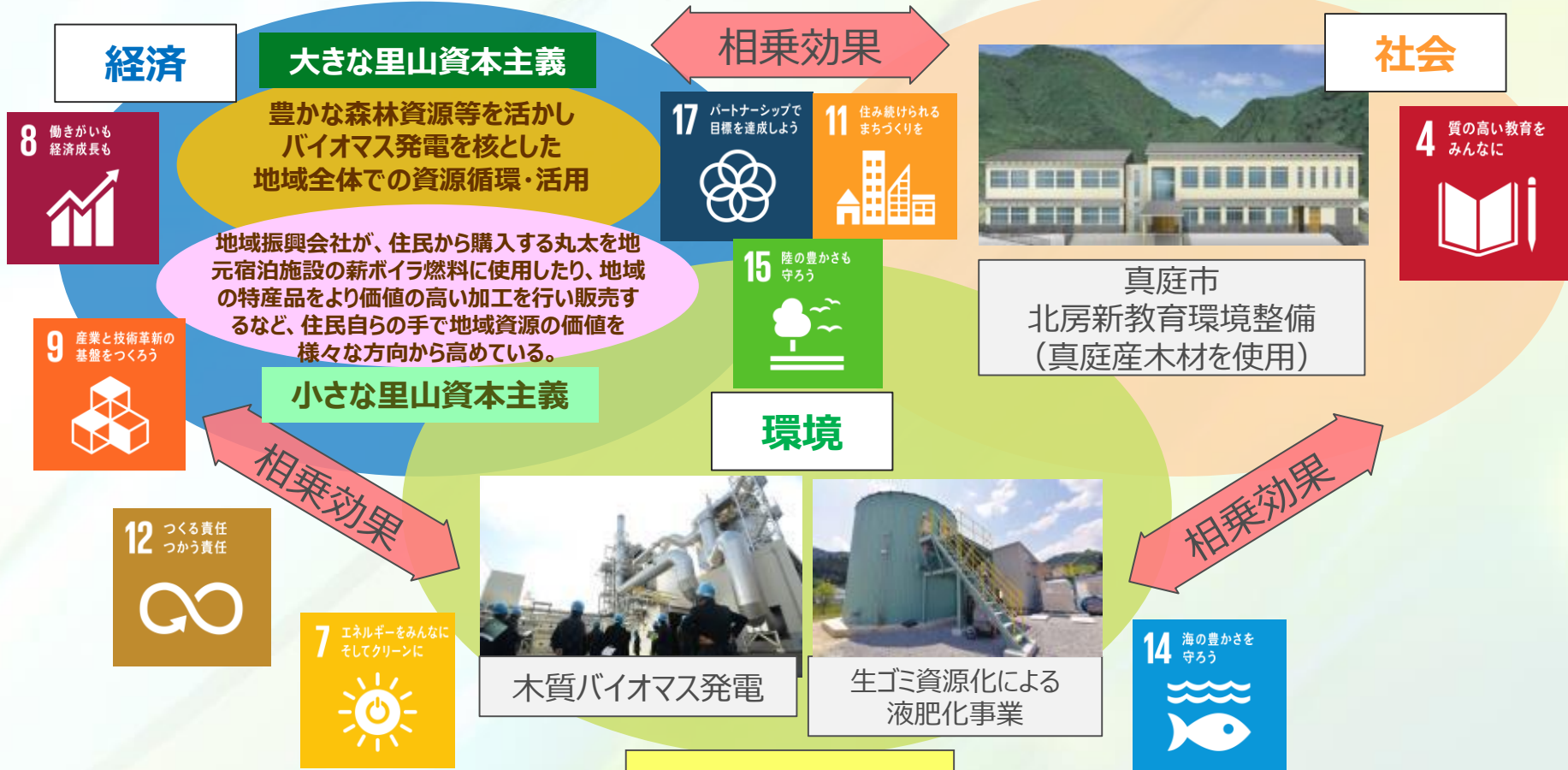
地方分散型は、地域内の経済循環が十分に機能しないと財政あるいは環境が極度に悪化し、分岐の後にはやがて持続不能となる可能性がある。これらの持続可能シナリオへの分岐は17～20年後までに発生する。

持続可能シナリオへ誘導するためには、**地方税収、地域内エネルギー自給率、地方雇用などについて、経済循環を高める政策**を継続的に実行する必要がある。

6 持続可能な地域の発展へ向けて～真庭SDGs～

【国際社会全体の持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）】

持続可能な地域の発展へ向けて、バイオマス施策や循環型地域経済の事業推進、地産地消の農業振興、自然再生エネルギー100%のエネルギーエコタウンへ向けた取組をさらに進化させていく。



(取り組みの一例)

真庭市の持続的発展へ



7 地方の永続的発展のための提案

① 起業の際の生活の保証、ノウハウの伝授

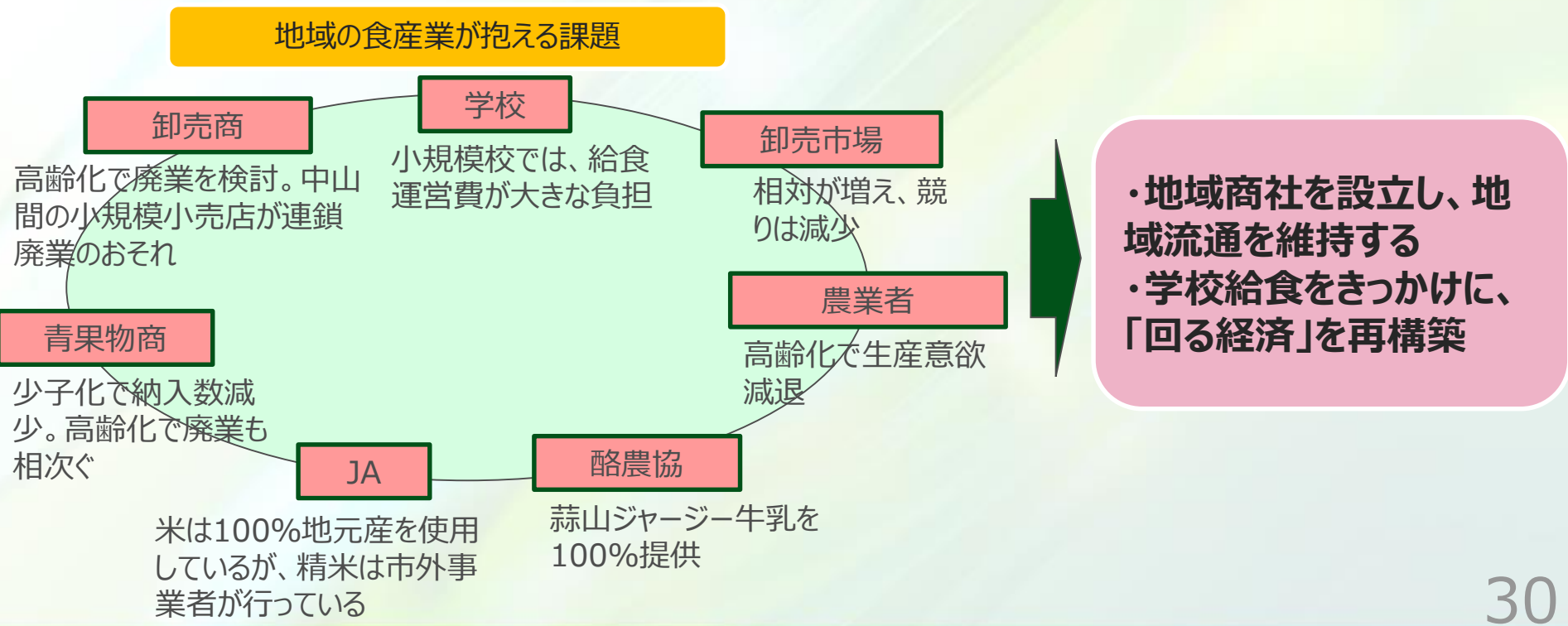
【課題】

- ・人の流れを作る仕組み（農山村へU I Jターンをしたくなる仕組み）を整備する必要がある
- ・良い商品を企画開発しても、販路やパッケージなど、“売るための仕掛け”が地方、特に中山間地域は弱い

【対策】

- ・販路やパッケージングなど、売れるためのノウハウを伝授してくれる仕組みの構築が必要
- ・移住、起業のための初期の生活費、旅費などを保証することができれば、思い切って地方で起業する人が増えるのではないか

② 地域商社設立による地域流通の維持



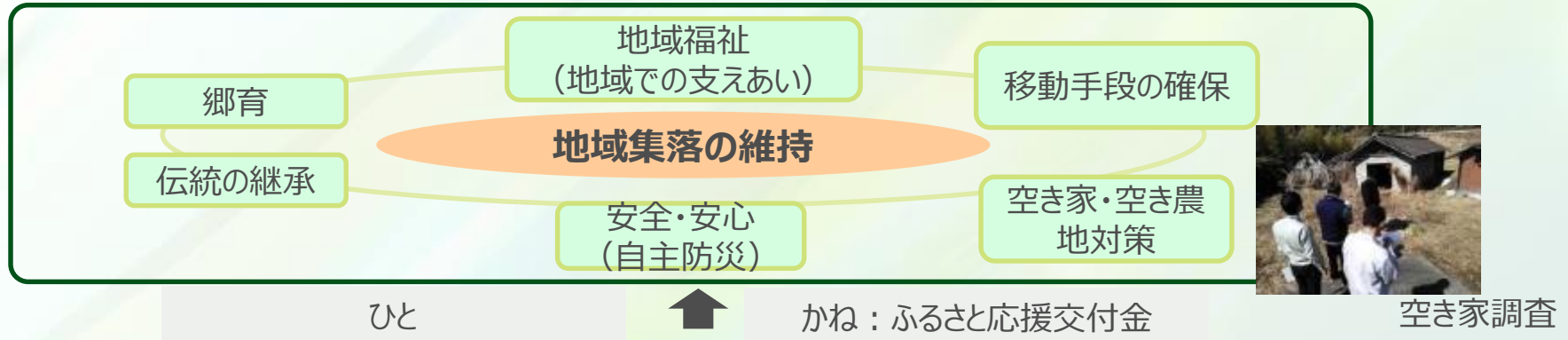
7 地方の永続的発展のための提案

③有能な若者を地域に（大学の休学要件の緩和）

大学生が地域おこし協力隊員として、長期間休学できる仕組みの制度化
※P19の橋本隆宏氏の例を参照

④地域で支えあう仕組みづくり（地域共同体の維持）

- 【課題】
- ・地域での支えあいや関係人口による支援などの組織・仕組みづくりができていない地域がある
 - ・伝統行事や祭りなど住民だけでは成り立たず、継承が困難な地域が出てきている

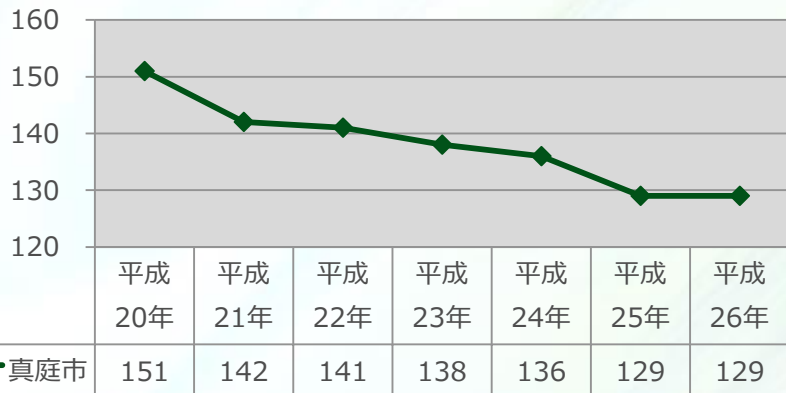


関係人口の活用：関係人口の参画による地域集落の維持

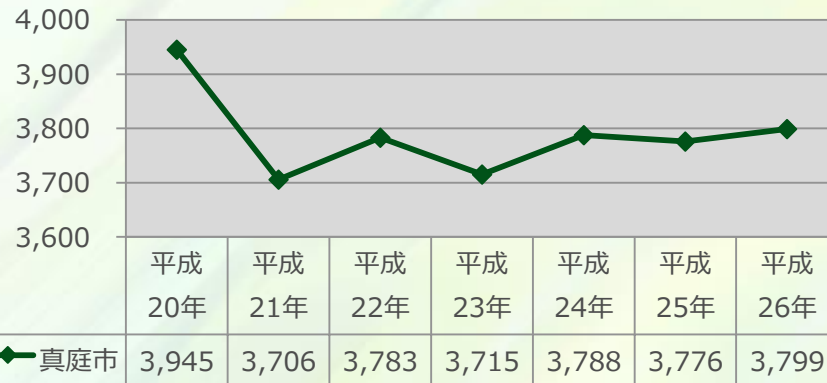
真庭市出身者	なりわい塾	起農スクール	真庭に想いを寄せる者	大学生
--------	-------	--------	------------	-----

【真庭市の工業事業の状況 出典：工業統計調査より】

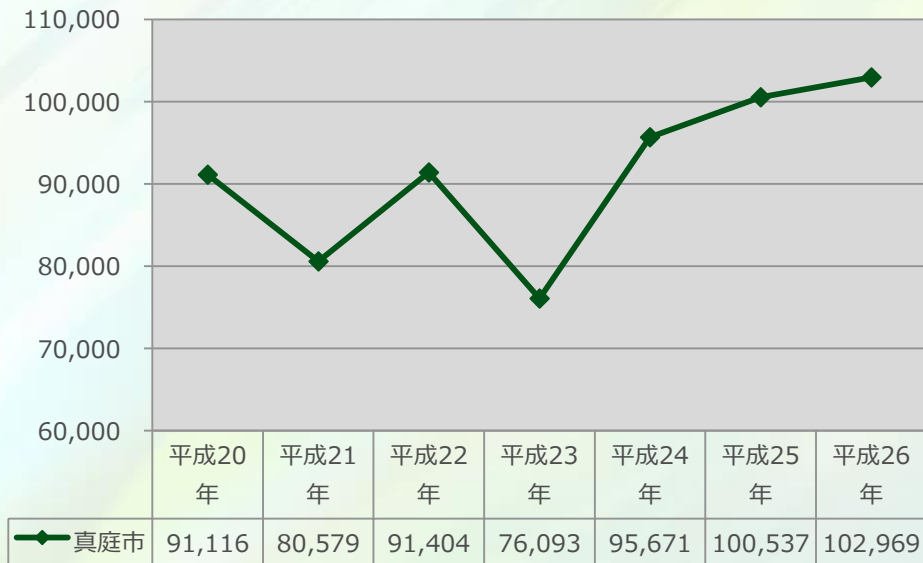
①従業者4人以上の事業所の推移（単位：事業所）



②従業者数の推移（単位：人）

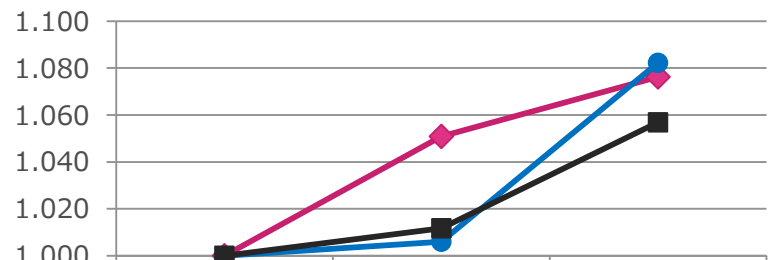


③製造品出荷額の推移（単位：百万円）



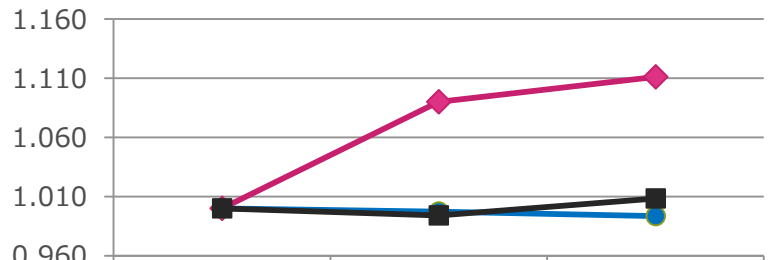
【製造品出荷額等の伸び率 出典：2014工業統計調査より】

工業製品出荷額（H24年との比較）



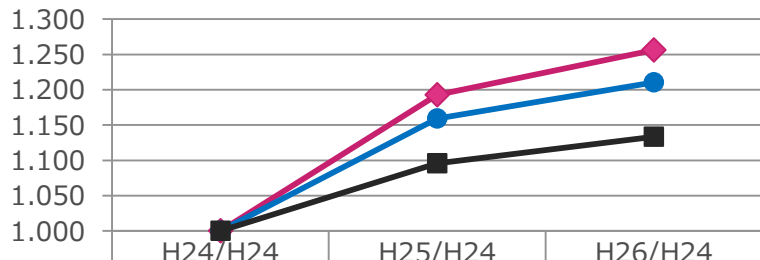
	H24/H24	H25/H24	H26/H24
真庭市	1.000	1.051	1.076
岡山県	1.000	1.006	1.082
全国	1.000	1.012	1.057

工業 現金給与総額（H24年との比較）



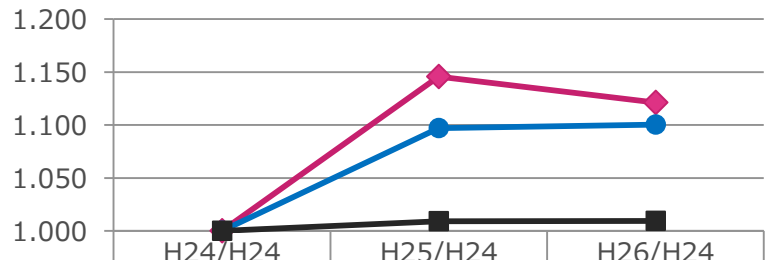
	H24/H24	H25/H24	H26/H24
真庭市	1.000	1.090	1.111
岡山県	1.000	0.997	0.994
全国	1.000	0.994	1.008

木材・木製品製造出荷額（H24年との比較）



	H24/H24	H25/H24	H26/H24
真庭市	1.000	1.193	1.256
岡山県	1.000	1.159	1.210
全国	1.000	1.096	1.133

木材・木製品 現金給与総額（H24年との比較）



	H24/H24	H25/H24	H26/H24
真庭市	1.000	1.146	1.121
岡山県	1.000	1.097	1.100
全国	1.000	1.009	1.010

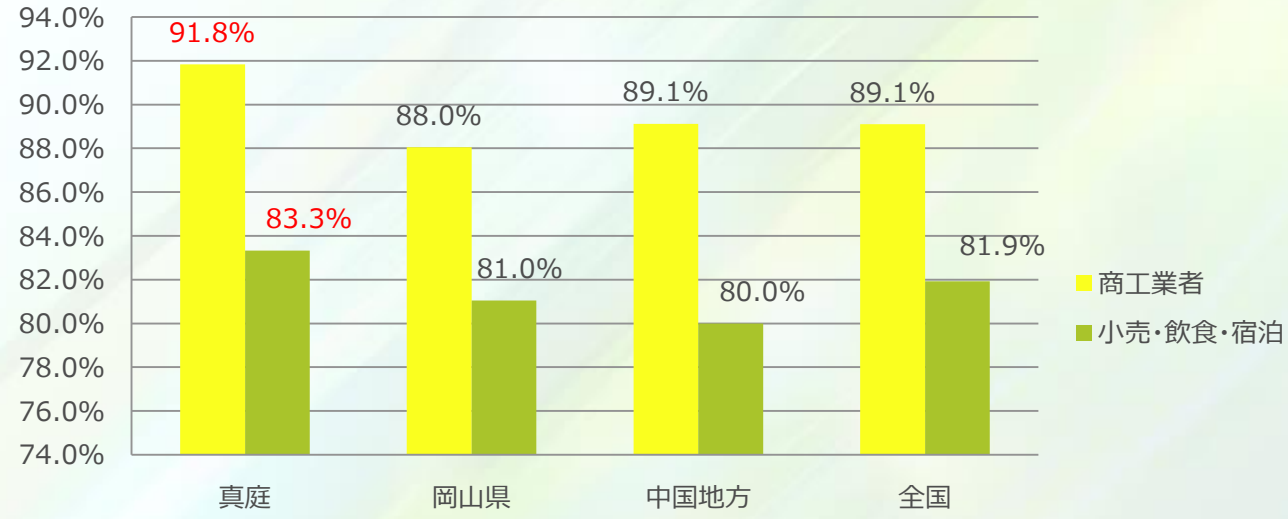
資料編～商工業～（関連ページ：10～15）

【商工業者数の推移 商工会の調査より】

真庭	H19.4月	H20.4月	H21.4月	H22.4月	H23.4月	H24.4月	H25.4月	H26.4月	H27.4月	H28.4月	H29.4月	10年前比較	維持率
商工業者数	2,452	2,444	2,369	2,353	2,345	2,337	2,289	2,289	2,277	2,279	2,252	▲ 200	91.8%
うち小売・飲食・宿泊業	1,020	1,008	971	961	947	934	905	885	871	868	850	▲ 170	83.3%
岡山県	H19.4月	H20.4月	H21.4月	H22.4月	H23.4月	H24.4月	H25.4月	H26.4月	H27.4月	H28.4月	H29.4月	10年前比較	維持率
商工業者数	23,830	23,274	22,059	21,791	21,634	21,428	21,297	21,270	21,238	21,030	20,982	▲ 2,848	88.0%
うち小売・飲食・宿泊業	7,604	7,321	6,915	6,831	6,744	6,601	6,465	6,438	6,357	6,262	6,163	▲ 1,441	81.0%
全国	H19.4月	H20.4月	H21.4月	H22.4月	H23.4月	H24.4月	H25.4月	H26.4月	H27.4月	H28.4月	H29.4月	10年前比較	維持率
商工業者数	1,582,640	1,538,251	1,519,917	1,498,410	1,488,285	1,483,790	1,477,033	1,456,580	1,436,708	1,414,809	1,410,212	▲ 172,428	89.1%
うち小売・飲食・宿泊業	572,571	553,913	542,075	534,547	527,381	519,836	514,324	500,871	485,678	475,136	469,067	▲ 103,504	81.9%

※真庭地域は、新庄村を含む。支店と本店が同地域にある場合は1カウントとなる

10年間の商工業者の維持状況



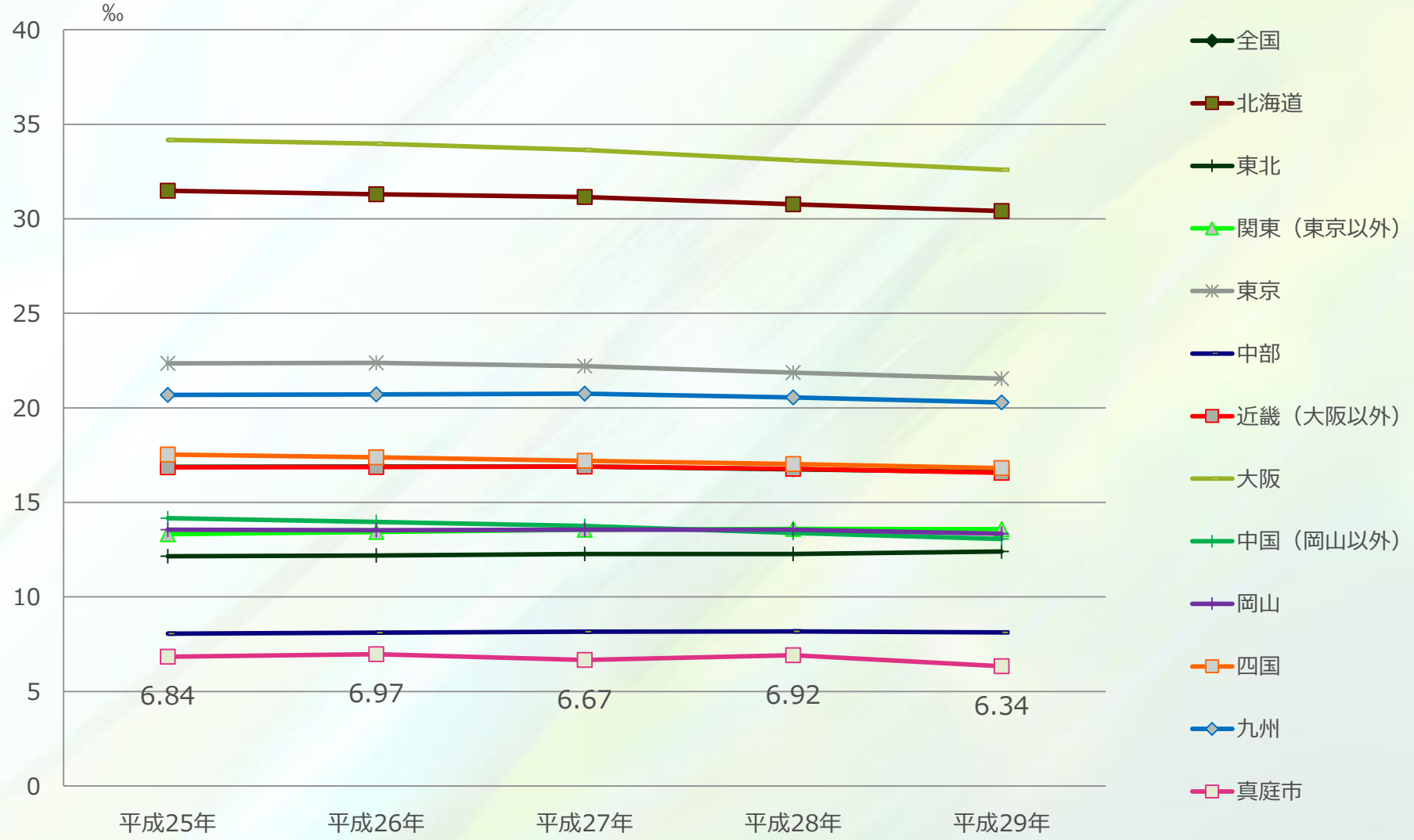
【真庭商工会の会員数の推移】

	H19.3末	H20.3末	H21.3末	H22.3末	H23.3末	H24.3末	H25.3末	H26.3末	H27.3末	H28.3末	H29.3末	H30.3末
加入(件)	57	53	35	45	31	40	31	55	53	61	53	84
脱退(件)	103	71	126	127	79	59	62	73	86	73	65	78
会員数(件)	1,825	1,801	1,710	1,628	1,580	1,561	1,530	1,512	1,479	1,467	1,455	1,461

資料編～社会保障費～

【生活保護受給者率の比較】

全国的に見ると大阪が高く、次いで北海道、東京が続いている。



※厚生労働省「被保護者調査」の毎年12月の生活保護受給者数を住民基本台帳人口で除したものの

資料編～次世代を担う「ひと」高校生へのアンケート～

【日本への誇りや社会貢献について】

※市内のデータは平成30年3月現在

真庭市内の高校生に対し、アンケートを行った。

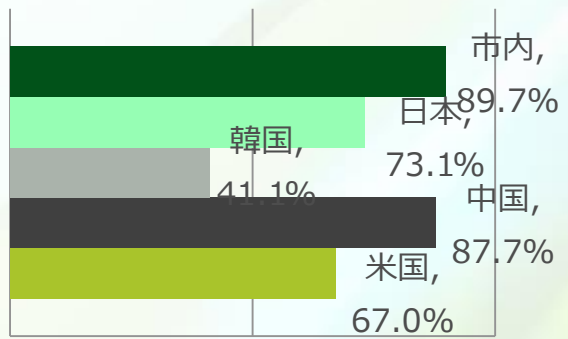
住んでいる地域に誇りを持っている人は比較的多いが、将来地域で就職したい、帰ってきたい人が相対的に少ないことがわかった。

項目	とてもそう思う、 そう思う の割合
卒業後は進学したい	75.1%
将来は都会で就職したい（都会への憧れがある）	57.3%
将来は住んでいる市・地域で就職したい	38.9%
将来は住んでいる市・地域に帰ってきたい	58.0%
住んでいる市・地域に誇りを持っている	78.2%
住んでいる市・地域を知っている方だと思う	63.6%
地域の祭りに参加している	77.7%
S D G s について知っている	14.1%

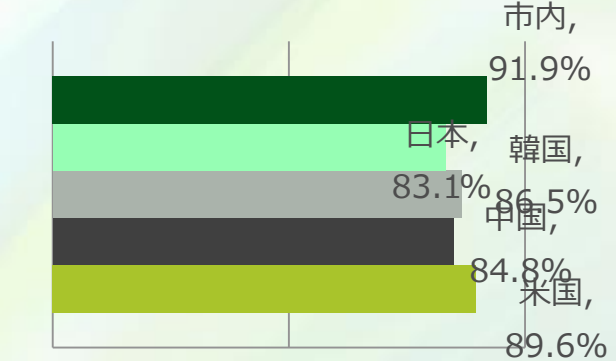
本市の高校生は、日本や他国と比べ、自国に誇りを持っていたり社会に役に立つ生き方をしたいと思っている人が多い。

日本、韓国、中国、米国のデータは日本青少年研究所「高校生の生活と意識に関する調査（2015.7）」から引用

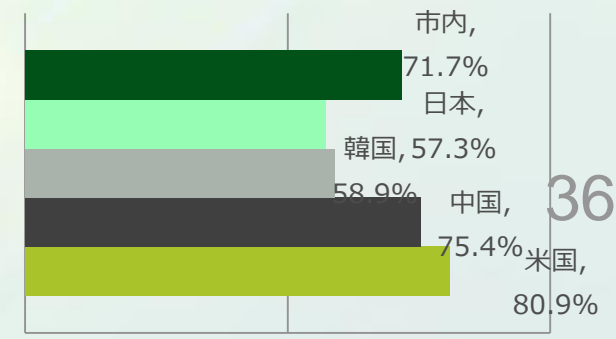
自分の国に誇りを持っている



社会の役に立つ生き方をしたい



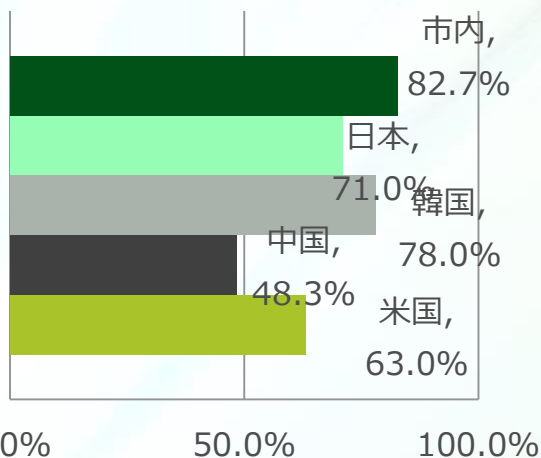
将来に対してはっきりした目標をもっている



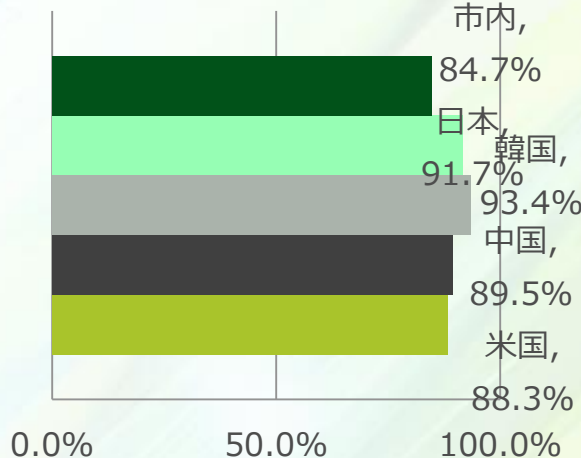
※市内のデータは平成30年3月現在

日本、韓国、中国、米国のデータは日本青少年研究所「高校生の生活と意識に関する調査（2015.7）」から引用

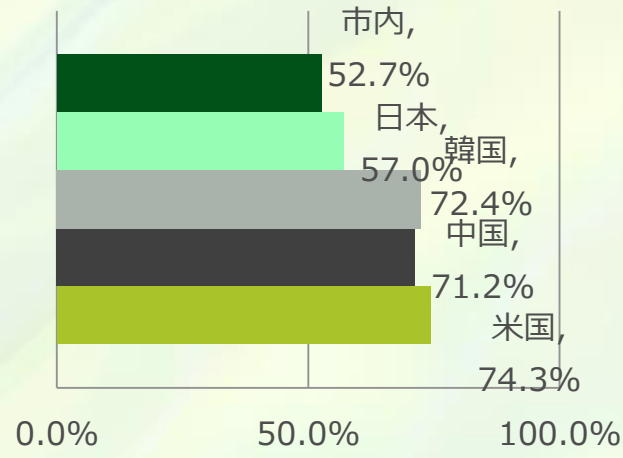
将来に不安を感じている



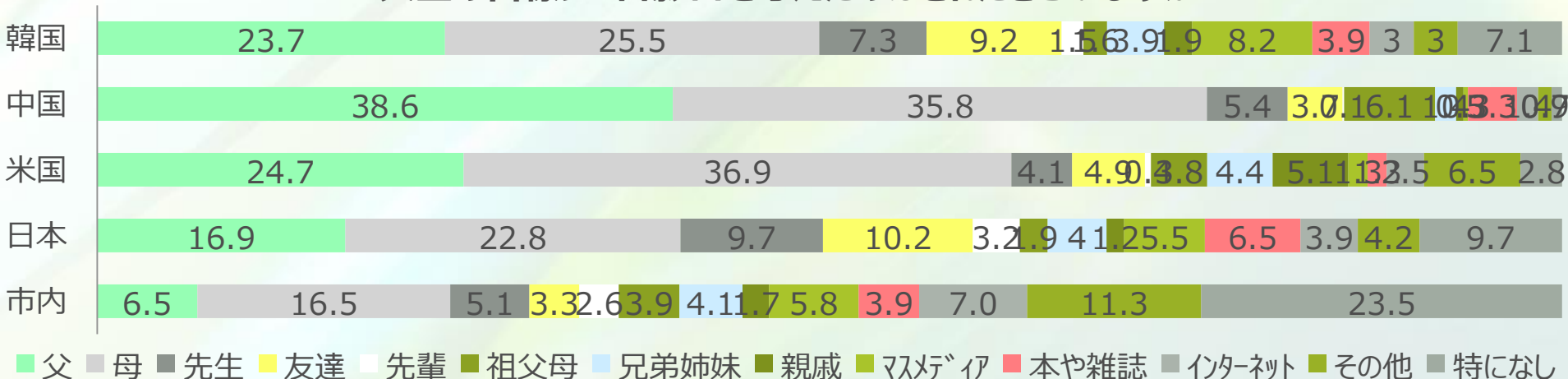
将来はのんびり暮らしたい



高い地位につきたい

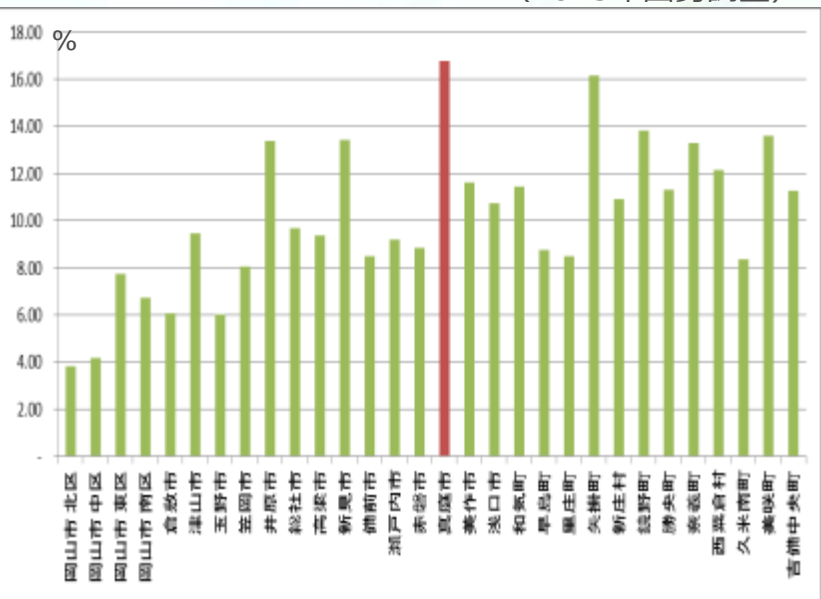


人生の目標に1番影響を与えたのはどれだと思いますか



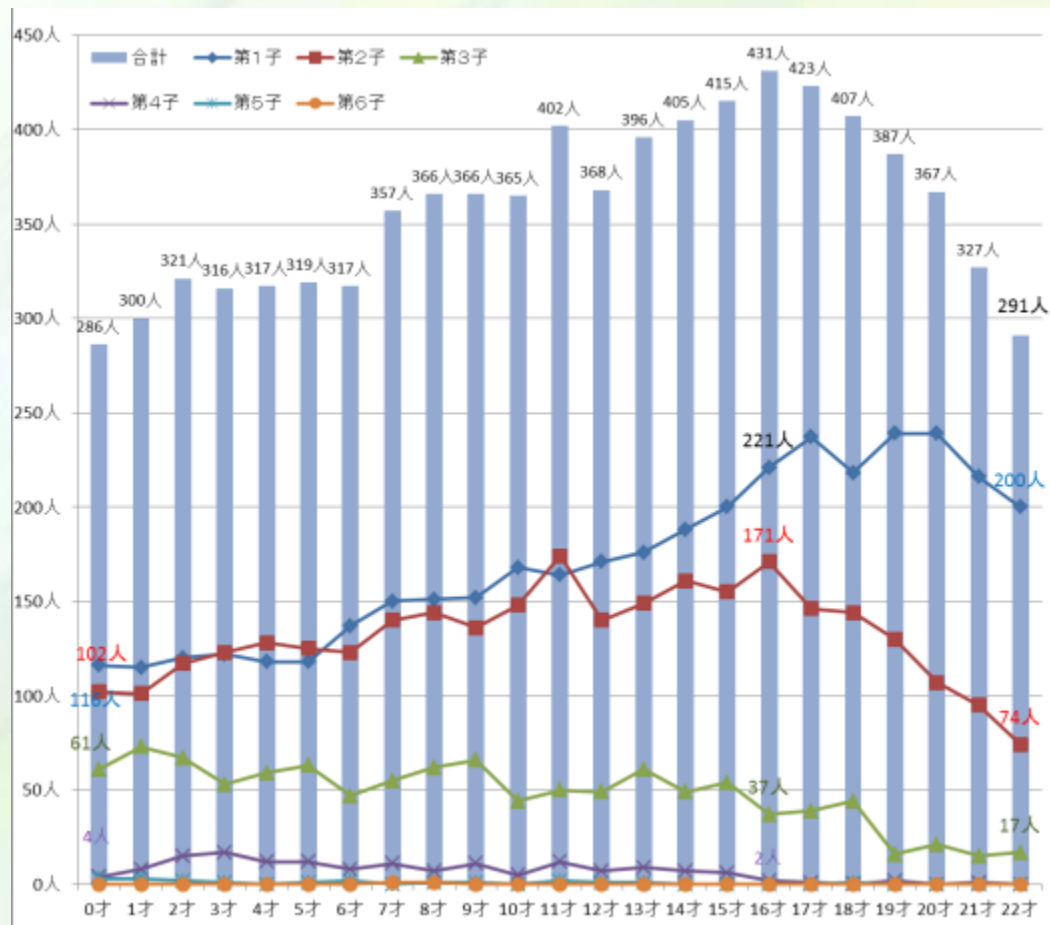
【三世代同居率の県内比較】

県内で一番高い。(2015年国勢調査)

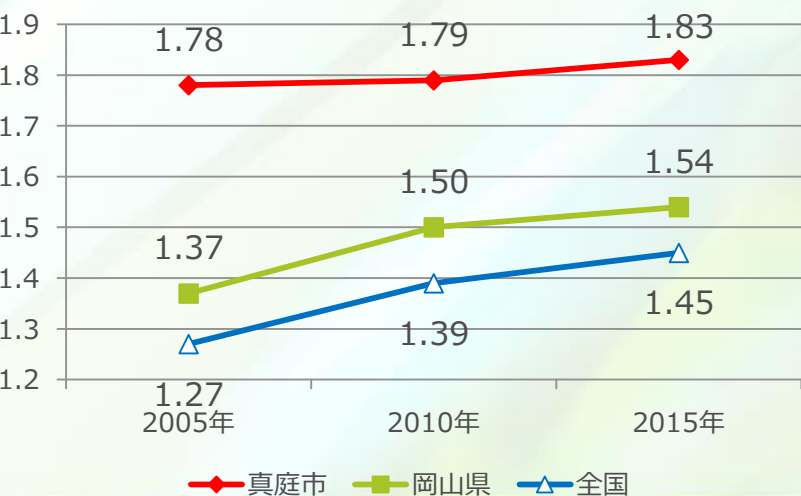


【22歳以下のこどもの数の状況(H29.9.1現在)】

第1子、第2子の数は拮抗していたが、直近では第1子の数が第2子の数を下回る状況が生じており、少子化の加速化が懸念されている。



【合計特殊出生率の推移】



出典：真庭市調べ。22歳以下の子供がいる世帯について、その子が何番目の子供であるかを分類したもの